



下り酒が生んだ銘醸地、伊丹と灘五郷

「伊丹諸白」と 「灘の生一本」

令和二年度 日本遺産認定





日本最古の酒蔵「旧岡田家住宅・酒蔵」（国指定重要文化財）

それまでの白く濁った「濁り酒」ではなく、「澄み酒」を生み出したのは鴻池でした。伊丹市鴻池の鴻池稲荷祠碑には山中家が初めて澄み酒を造り、江戸まで出荷したことが刻まれています。麴と掛米（もろみ造りに使う米）両方に精白米を惜しみなく使った伊丹の酒は「伊丹諸白」として珍重され、「下り酒」として江戸

「伊丹諸白」の出現と



旧岡田家住宅 洗い場・釜場



山中家跡とされる場所に建つ「鴻池稲荷祠碑」

で大変な人気を博しました。江戸時代の名所案内記『摂津名所図会』にも「名産伊丹酒」として美酒を数千石造り、その多くが関東に送られていたことが記されています。

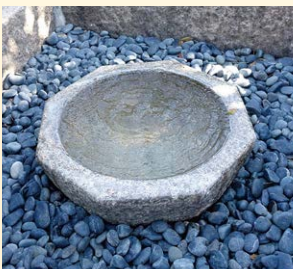
こうして伊丹は下り酒の名産地として名を馳せ、現在は「清酒発祥の地・伊丹」として知られています。江戸時代は天皇がおられる京（上方）から江戸へ送ることを“下る”と言い、“下り酒”もそのひとつでした。

4つのストーリー

400年の酒造りの文化をたどる

神戸市・尼崎市・西宮市・芦屋市・伊丹市が申請した『「伊丹諸白」と「灘の生一本」下り酒が生んだ銘醸地 伊丹と灘五郷』が2020年6月、日本遺産に認定されました。兵庫県は全国最多の日本遺産が認定されている県であり、さらに「日本酒」をテーマにした日本遺産は今回が初となります。400年前から今日まで、伊丹と灘五郷で伝統と文化が育まれている酒造文化の4つのストーリーをひもときながら、「清酒発祥の地」である伊丹や「日本一の酒どころ」灘五郷を歩いてみませんか？

伊丹から清酒造りを導入し、江戸時代中期以降、「下り酒」の産地として台頭したのが「灘五郷」です。現在も西宮市の今津郷・西宮郷から神戸市東灘区の魚崎郷・御影郷、灘区の西郷と東西12kmにおよぶ日本最大の清酒酒造地帯で、日本酒生産量の



灘の酒の味を高める「宮水」が湧き出る井戸（西宮市）

は麹菌や酵母の栄養分となるため酒造りに非常に適しています。また風味を損ねる鉄分が少ないのも特徴です。18世紀後半以降、さらに土地の利として酒米の精白に芦屋川などの急流を利用した水車を使い、高い精白度の酒米を得たことで日本酒の

1/4のシェアを占めています。灘五郷で醸造した清酒は「灘の生一本」「灘の男酒」と呼ばれ、その淡麗な風味が愛されています。この灘五郷でしか造れない味わいの理由として、まず西宮郷で汲み上げる「宮水」が挙げられます。宮水に多く含まれるリンやカルシウムなどのミネラル

六甲山の恵みと丹波杜氏が生んだ「灘の生一本」



えべっさんの酒醸造祈願祭を行うため西宮神社まで練り歩く様子



丹波杜氏に支えられた伊丹・灘の酒造技術「白鶴酒造資料館（白鶴きゅうほんていこうくら）」

丹波杜氏に支えられた伊丹・灘の酒造技術「白鶴酒造資料館（白鶴きゅうほんていこうくら）」業に合わせて歌った「酒造り唄」は今でも新酒の蔵びらきなどで聞くことができます。

量産化を実現しました。また冬の季節風「六甲おろし」を利用するため酒蔵の向きを合わせ、窓の開閉で酒蔵の冷却や換気が効果的に行えたことも、灘五郷の酒造の発展に貢献。

こうした六甲山の恵みはもちろんですが、酒造りに一番欠かされたのが六甲山の北、丹波地方から招いた「丹波杜氏」です。彼らは厳寒期に仕込む「寒造り」、発酵を促す「三段仕込み」など、技術や道具の改良を重ねて現代の清酒につながる酒造りのスタンダードを築きました。彼らが酒造りの作業に合わせて歌った「酒造り唄」は今でも新酒の蔵びらきなどで聞くことができます。

市立伊丹ミュージアム



旧岡田家住宅



日本山海名産図会(▲上 ▶右)

構成文化財

せつつ めいしよ え にほんさんかいめいさんず え きやうおかだ けじゅうたくつたりむなだかまや あら ぼ し ぼ きやういしほしけじゅうたく いなみこうちやういせきはつちやうさしゆつひんとう さかだる おけ
撰津名所図会、日本山海名産図会、旧岡田家住宅附棟札、釜屋及び洗い場 搾り場、旧石橋家住宅 伊丹郷町遺跡発掘調査出土品等、酒樽・桶づくり用
ぐいっしき たるまる ようぐ この え けいしよかんけいしりよう こにしんう えもん しもんじょ いなみ しやうようぐ かんけいしりようせつしやういなみさかだるめいけん ばしやうたんざくほかはいしりよう
具一式(樽丸づくり用具を含む)、近衛家会所関係資料、小西新右衛門氏文書、伊丹・酒造用具及び関係資料、摂州伊丹酒樽銘鑑、芭蕉短冊他俳諧資料

「酒と文化の薫るまち」
伊丹の歴史・文化・芸術の発信拠点
2022年4月22日にグランドオープン

◎酒造り展示(旧岡田家住宅)

・重要文化財建造物を活かし、清酒発祥の地としての酒造りの様子や清酒で栄えた伊丹の歴史について分かりやすく紹介します。

◎歴史展示(展示室4)

・縄文時代から現代まで、伊丹市域がどのような変遷を辿ってきたのかを伝える歴史資料を元に、各時代の重要トピックを中心に紹介します。

住所：伊丹市宮ノ前2-5-20 電話：072-772-5959

開館時間：10:00～18:00(入館は17:30まで)

定休日：月曜(祝日にあたるときはその翌日)・年末年始

観覧料：観覧会により異なります。詳しくは、市立伊丹ミュージアムホームページへ

小西酒造「長寿蔵」(白雪ブルワリービレッジ長寿蔵)

築250年以上の酒蔵を改装したレストラン・展示施設

伊丹・白雪小西酒造の酒蔵を改装し、平成7年にオープン。1階レストランでは、造りたてのクラフトビールや日本酒と相性の良いお料理が楽しめます。2階では、江戸時代に杜氏や蔵人が実際に使った昔の酒造りの道具130種200余点が展示されているとともに、日本酒の歴史、清酒発祥の地である伊丹の酒造りの歴史等を紹介。遊びながら学び、楽しめる「おもしろ博物館」をテーマとした、ビールと日本酒に関するインタラクティブな参加型ミュージアムです。

住所：伊丹市中央3-4-15 電話：072-773-1111

営業時間：11:30～22:30(ミュージアムは19:00まで) 定休日：第2火曜(GW期間は営業)



構成文化財

こにししやう ちやうじゅくら
小西酒造「長寿蔵」
しらゆき
ちやうじゅくら
(白雪ブルワリービレッジ長寿蔵)

有岡城跡・伊丹郷町跡



落城後に酒造りで繁栄した江戸時代の遺構をたどる



堀と土塁で囲う大規模な改造を行いました。しかし村重は突如として信長に離反。信長軍に城下町を焼かれてしまいますが、町人町は残りました。江戸時代、焼け残った町は酒造業を基幹産業に大いに発展していきます。伊丹で造られた酒は多くが江戸へと送られ、「丹釀」などと称されて江戸の人々から大変な人気を得ました。

戦国時代、織田信長配下の荒木村重は伊丹城を攻め、城主の伊丹氏を追放します。そして城を有岡城と改め、城下町までを

住所：伊丹市伊丹1-12

構成文化財

ありおかじやうせき いなみこうちやういせき
有岡城跡・伊丹郷町遺跡

鴻池稲荷祠碑



清酒は「鴻池」から始まった?

清酒発祥の地と伝えられる「鴻池」の児童遊園地内に建つ中国古代貨幣「布貨」の形をした石碑で、亀形の台石「亀趺」の上に立てられています。碑文によると、山中家始祖 新六ゆきもと やまなか いの すけ 幸元は、戦国武将 山中鹿之介の子孫で、慶長5年(1600)、鴻池村において初めて清酒「双白澄酒」を造り、江戸に販路を見出して大いに成功したといい、これが山中家の繁栄の基礎となったと伝えられています。

住所：伊丹市鴻池6-14-21

構成文化財

こうのいけいなり し ひ
鴻池稲荷祠碑

西宮市立郷土資料館



下り酒を運んだ樽廻船と 西宮の歴史にふれる資料館



樽廻船模型

西宮の歴史と文化財を実物資料で知ることができる施設です。樽廻船の船鑑札や廻船加入証文、下り酒の仕切状などのほか、新酒番船に関する「新酒惣壹番の杯」、樽廻船の船頭らが惣一番を祝って着用した法被、錦絵「新酒番船入津繁栄図」など、多くの樽廻船関係資料を所蔵、展示しています。



新酒番船入津繁栄図(部分)



新酒惣壹番の杯

住所: 西宮市川添町15-26 電話: 0798-33-1298
開館時間: 10:00～17:00(入館は16:30まで)
定休日: 月曜・年末年始 料金: 無料

構成文化財

たるかいせんかんけいしりょう
樽廻船関係資料

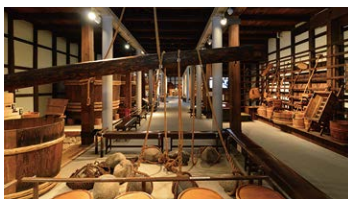
日本にただひとつの「日本酒」と 「さくら」の博物館

昭和57年(1982)に伝統的の酒造りを後世に伝える目的で設立した、日本にただひとつの「日本酒」と「さくら」の博物館。「酒蔵館」と「記念館」の2棟で構成されています。明治2年(1869)築の酒蔵を利用した「酒蔵館」では、酒造道具に触れる体験や酒造り映像・酒造り唄の視聴ができます。

「記念館」では、酒に関する資料や西宮市より寄託を受けている故笹部新太郎氏の「笹部さくらコレクション」等を展示しています。「酒蔵館」である辰馬本家酒造日本蔵、館内の金場遺構、灘の酒造用具一式 附 酒造用桶・樽づくり道具一式が日本遺産の構成文化財に認定されています。

住所: 西宮市鞍掛町8-21 電話: 0798-33-0008
開館時間: 10:00～17:00(入館は16:30まで)
定休日: 火曜(祝日の場合は翌平日、連休に含まれる場合は連休明け休館) 料金: 一般500円、中・小学生250円

酒ミュージアム(白鹿記念酒造博物館)



構成文化財

にしのみやごうはくしかたつうまほんけ しゅぞうほんぐら かまばいこう
西宮郷・白鹿辰馬本家酒造本蔵 釜場遺構
なだ しゅぞうようぐ いっしきつたりしゅぞうようおけ たる どうぐ いっしき
灘の酒造用具一式 附 酒造用桶・樽づくり道具一式

えびす宮総本社 西宮神社



酒造家と共に隆盛を極める福の神

日本に約3,500社あるえびす神社の総本社。地元では「西宮のえべっさん」と呼ばれ、毎年1月10日の「十日えびす」では開門と同時に走り参りをする福男選びが行われます。また10月には10万人を超える来場者で賑わう日本酒のイベント「西宮酒ぐらルネサンスと食フェア」が開催されます。境内には西宮郷の酒屋中が嘉永元年(1848)に建造した「嘉永橋」と、白鹿辰馬家初代の悦叟が明治40年(1907)に奉納し孫の悦蔵の代に改修した「瑞寶橋」という、西宮郷にゆかりのある二つの橋があり、日本遺産の構成文化財に認定されています。



嘉永橋



瑞寶橋



住所: 西宮市社家町1-17 電話: 0798-33-0321
開門時間: 5:00～18:30(3・9月) 5:00～19:00(4～8月)
5:00～18:00(10～2月)

構成文化財

にしのみやじんじや かえいばし ずいほうばし
西宮神社 嘉永橋、瑞寶橋

芦屋市

国指定重要文化財

ヨドコウ迎賓館(旧山邑家住宅)



灘の酒造家が建てた阪神間モダニズムを代表する近代建築

大正13年(1924)竣工。「櫻正宗」の銘柄で知られる灘の酒造家八代目山邑太左衛門が建てた別邸で、近代建築の三大巨匠のひとりであるフランク・ロイド・ライトの設計として知られています。昭和22年(1947)には株式会社淀川製鋼所の所有となり、昭和49(1974)年5月21日には国の重要文化財に指定され、現在ヨドコウ迎賓館として一般公開されています。

住所: 芦屋市山手町3-10 電話: 0797-38-1720

開館時間: 10:00~16:00(入館は15:30まで) 定休日: 月曜・火曜・木曜・金曜

料金: 大人500円、小・中・高200円

構成文化財

ヨドコウ迎賓館(旧山邑家住宅)

芦屋川水車絵図
(芦屋市立美術博物館所蔵)

灘の酒米を精米した芦屋川の水車場群が描かれた絵図

安政4年(1857)に描かれた「芦屋川水車絵図」。芦屋川にあった約20ヶ所の水車場群とそれらを結ぶ水路等が描かれており、灘五郷の酒米の精米も行っていた芦屋川の水車場群について知ることができます。やがて水車業は電動機の普及により徐々に数が減り、戦後にはすべての水車が姿を消しました。



構成文化財

芦屋川水車絵図

尼崎市

尼崎市立歴史博物館



摂州酒樽薦銘鑑

江戸時代の尼崎城本丸跡地に令和2年(2020)秋に開館した歴史博物館。

尼崎の豊かな歴史や文化を理解し未来を展望する学びの場として、歴史遺産を後世へと伝える役割をもつ博物館です。昭和13年(1938)に竣工した旧尼崎市立高等女学校の校舎を転用して開館しました。尼崎の原始・古代から現代までの通史を概観できる常設展示のほか、年1回の特別展と年3回程度の企画展が開催されています。

住所: 尼崎市南城内10-2 電話: 06-6489-9801

開館時間: 9:00~17:00(入館は16:30まで)

定休日: 月曜(祝日の場合は直後の平日)、12/29~1/3

料金: 無料

構成文化財

「摂州酒樽薦銘鑑」(江戸時代に尼崎・伊丹・西宮などで造られた酒の菰樽の図柄を収録)。他、館内に日本遺産展示コーナーあり。

白鶴酒造資料館



実際に使用していた酒蔵。
脈々と継承されてきた伝統の酒造りをそのまま公開

御影郷・白鶴酒造(寛保3年(1743)創業)の本店老号蔵として大正初期に建造され、昭和44年(1969)まで実際にお酒を造っていた酒蔵を改造して、昭和57年(1982)に開設した酒造資料館です。酒造工程を立体的に展示するとともに、酒造用具や発掘調査出土品を展示しています。白鶴酒造資料館の酒蔵(建物)は経済産業省から「近代化産業遺産」に平成20年(2008)に認定されています。

住所:神戸市東灘区住吉南町4-5-5 電話:078-822-8907
開館時間:9:30~16:30(入館は16:00まで)
定休日:お盆休み・年末年始 料金:無料

構成文化財

御影郷・白鶴旧本店老号蔵出土遺物 白鶴酒造用具

菊正宗酒造記念館及び 樽酒マイスターファクトリー



360有余年続く酒造りの歴史と伝統を体感

国指定重要有形民俗文化財「灘の酒造用具」や所蔵する小道具類が展示されている記念館。復元された水車小屋や酒造用具、酒器などを展示し、酒造りの歴史を今日に伝えています。さらに、樽酒マイスターファクトリーでは、酒造りに欠かせない酒樽を、職人たちが作り上げる様子を間近で見学することができます。

住所:神戸市東灘区魚崎西町1-9-1
電話:078-854-1029・078-277-3493 開館時間:9:30~16:30(入館は16:00まで) 定休日:年末年始 料金:無料

構成文化財

灘の酒造用具(菊正宗酒造記念館)
御影郷・菊正宗嘉納家酒関連資料及び樽酒マイスターファクトリー

沢の鶴資料館



兵庫県「重要有形民俗文化財」に指定された
「昔の酒蔵」を忠実に復興再建

江戸時代末期に建造され170年以上の歳月を経てきたと考えられる大石蔵を、酒造りの文化を広め、後世に伝えることを願って資料館として公開。創業300年を誇る沢の鶴の貴重な酒造りの道具や、江戸へ酒を運んだ樽廻船の模型など、灘酒の伝統文化を展示しています。発掘調査で発見された、全国でも珍しいとされる地下構造の「槽場」跡も露出展示されています。

住所:神戸市灘区大石南町1-29-1 電話:078-882-7788
開館時間:10:00~16:00
定休日:水曜・お盆休み・年末年始 料金:無料

構成文化財

沢の鶴株式会社大石蔵 附
灘の酒造用具一式 槽場遺構

御影公会堂



国登録有形文化財に登録される歴史的建造物

白鶴酒造七代目嘉納治兵衛から寄付を受けて昭和8年(1933)に建築。屋上の物見台が特徴です。昭和32年(1957)から昭和58年(1983)まで「市民総合結婚式場」が開設され、のべ2万組が式を挙げました。現在は、地下に御影郷土資料室・嘉納治五郎記念コーナーが開設されています。

住所:神戸市東灘区御影石町4-4-1 電話:078-841-2281
開館時間:9:00~21:00(地下の御影郷土資料室は17:00まで)
定休日:火曜・年末年始 料金:無料(会議室等の利用は有料)

構成文化財

御影公会堂

「下り酒」と「樽廻船」



樽廻船や酒造用具の展示をしている酒造会社も多い

くた ざけ たる
下り酒を江戸へ届けたのは樽
かいせん くだ
廻船です。灘地域は沿岸地域
にあって、船積みの便に恵
まれ、また大坂や西宮に樽廻船
問屋ができたことで輸送体制も
強化。陸地の輸送より大量の酒
を出荷でき、江戸時代末期には

1年で100万樽もの清酒が江戸へと下り、江戸の清酒需要の8割を供給するほどでした。こうして樽廻船は、明治時代にその地位を汽船や鉄道に譲るまで江戸へ清酒を送り、伊丹と灘五郷の江戸積み酒造の発展を支えました。樽につめ、樽廻船で運ばれた清酒は樽の杉の香がうつり、運送中に熟成されて品質も向上しました。この樽作りの技術は「灘の酒樽製作技術」として国の無形民俗文化財にもなっています。



職人が実際に樽を作り、樽酒の魅力を伝える「菊正宗 樽酒マイスターファクトリー」

また熊野灘、遠州灘など、難所を航海する樽廻船の船倉に積んだ樽が荒波で壊れたり潮風で酒の味が落ちないよう、菰で包む菰樽も開発されました。この菰樽を作る技術は尼崎市内の企業が継承しており、菰樽は今では鏡開きなどの祝い事に欠かせないものとなっています。

初物好きの江戸っ子は、新酒をいち早く口にしたいと最初に江戸に入った酒に高値をつけました。そこで樽廻船を使って始まったのが「新酒番船」という競争です。江戸に一番に到着した船は「惣一番船」として称され、錦絵に描かれるほどの大人気の行事となりました。



現代まで継承されている菰樽作り

西宮の清酒の祭では惣一番の法被を着た新酒番船の水主が登場



日本遺産とは

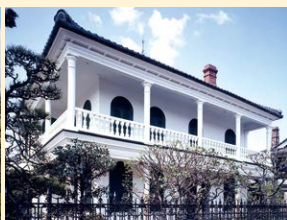
地域の歴史的の魅力や特色を通じて、日本の文化や伝統を語る「ストーリー」を日本遺産として文化庁が認定しています。このストーリーにかかせない地域に点在する魅力ある有形・無形の文化財群は保存だけでなく、活用を重視し、地域活性化を図ることを目的としています。

酒造家が育んだ文化

酒造家たちは江戸積み酒造で築いた富をこの地域の発展のために、芸術や教育、建築に注ぎました。御影郷の白鶴嘉納家の第7代・嘉納治兵衛は所蔵していた古美術を広く一般の方々にも見ってもらうため美術館を設立。昭和9年(1934)に開館した白鶴美術館には国宝2件、重要文化財22件を含む約1450点以上のコレクションが収蔵されています。また櫻正宗山邑家の別邸だったヨドコウ迎賓館(旧山邑家住宅)は、東京の帝国ホテルを設計したアメリカの建築家、フランク・ロイド・ライトの設計です。六甲の山肌に沿うように建つこの住宅は、酒造家の進取の気風を伝える



大正13年(1924)竣工の国指定重要文化財・ヨドコウ迎賓館(旧山邑家住宅)



「旧辰馬喜十郎住宅」は西宮郷・辰馬家喜十郎が建てた擬洋風住宅

近代建築のひとつとして知られています。さらに酒造家たちは人材育成にも尽力し、御影郷の菊正宗嘉納家と白鶴嘉納家、魚崎郷の櫻正宗山邑家の志を受けて、灘中学校・高等学校が創設されました。

酒造家たちの文化へのまなざしは「阪神間モダニズム」と呼ばれる近代文化勃興の端緒となり、阪神エリアの都市の骨格を形作りました。六甲山系のふもとにある伊丹・灘五郷28蔵は、酒造技術の継承とともに、酒造家の矜持と進取の気風を生み、阪神間の文化の革新や近代化に大きく貢献しています。そして今なお、日本だけでなく世界中で愛される多彩な清酒を造り続けています。



昭和2年(1927)に酒造家の篤志によって創立された私立灘中学校・高等学校本館



白鹿辰馬本家が伝える灘の酒造用具を展示する白鹿記念酒造博物館

構成文化財MAP



- 1 摂津名所図会(市立伊丹ミュージアム)
- 2 日本山海名産図会(市立伊丹ミュージアム)
- 3 鴻池稲荷祠碑
- 4 旧岡田家住宅 附 棟札、釜屋及び洗い場搾り場
- 5 旧石橋家住宅 伊丹郷町遺跡発掘調査出土品等
- 6 小西酒造「長寿蔵」(白雪ブルワリー・ビレッジ長寿蔵)
- 7 酒樽・桶づくり用具一式(樽丸づくり用具を含む)
(市立伊丹ミュージアム)
- 8 近衛家会所関係資料(市立伊丹ミュージアム)
- 9 小西新右衛門氏文書(市立伊丹ミュージアム寄託)
- 10 伊丹・酒造用具及び関係資料(市立伊丹ミュージアム)
- 11 津国屋永代帳(剣菱酒造株式会社)
- 12 有岡城跡・伊丹郷町遺跡
- 13 兵庫県の酒造習俗
(西宮市・神戸市広域にわたる構成文化財)
- 14 宮水発祥之地碑 宮水井 宮水地帯
- 15 芦屋川の文化的景観
- 16 芦屋川水車絵図(芦屋市立美術館博物館)
- 17 灘五郷・酒造り唄
(西宮市・神戸市広域にわたる構成文化財)
- 18 西宮郷・白鹿辰馬本家酒造本蔵 釜場遺構
- 19 灘の酒造用具一式 附 酒造用桶・樽づくり道具一式
(公財)白鹿記念酒造博物館

- 20 西宮神社嘉永橋
- 21 西宮神社瑞寶橋
- 22 魚崎郷・櫻正宗山邑家酒造用具、
酒造関連資料
- 23 魚崎郷・浜鶴酒造用具
- 24 灘の酒造用具(菊正宗酒造記念館)
- 25 御影郷・菊正宗嘉納家酒関連資料及び
樽酒マイスターファクトリー
- 26 御影郷・白鶴旧本店番号蔵出土遺物
白鶴酒造用具
- 27 御影郷・神戸酒心館酒造用具
- 28 沢の鶴株式会社大石蔵附灘の
酒造用具一式槽場遺構
- 29 灘の酒樽製作技術
(灘の酒樽製作技術保存会)
- 30 兵庫津・樽屋権兵衛家酒樽・
桶づくり道具一式
- 31 兵庫津・酒造稼名前帳(神戸市立博物館)
- 32 樽廻船関係資料(西宮市立郷土資料館)
- 33 灘酒造業関係史料(関西学院大学図書館)
- 34 史蹟當倉屋金兵衛港湾修築碑(西宮港)
- 35 敏馬神社弁財船絵馬

- 36 今津燈台 附 立札
- 37 神崎金毘羅さんの石灯籠
- 38 菰樽づくり技術
(株)岸本吉二商店、(株)矢野三蔵商店)
- 39 矢野家住宅
- 40 摂州伊丹酒樽銘鑑(市立伊丹ミュージアム)
- 41 摂州酒樽薦銘鑑(尼崎市立歴史博物館)
- 42 神戸大学海事博物館樽廻船資料
- 43 芭蕉短冊他俳諧資料((公財)柿衛文庫)
- 44 なぎなた(修武館)
- 45 賢愚経残巻(大聖武)甲巻 四百六十一行
乙巻 五百三行 ほか多数((公財)白鶴美術館)
- 46 白鶴美術館本館、白鶴美術館事務棟、
白鶴美術館土蔵、白鶴美術館茶室(松庵)
- 47 絹本着色安仲麻呂明州望月 円通大師
呉門隠樓図 ほか多数
(公財)辰馬考古資料館)
- 48 旧辰馬喜十郎住宅
- 49 ヨドコウ迎賓館(旧山邑家住宅)
- 50 私立灘中学校・高等学校本館
- 51 甲南漬資料館(旧高嶋家住宅主屋)
- 52 御影公会堂

阪神間日本遺産推進協議会

事務局:伊丹市都市活力部 空港・にぎわい課

〒664-8503 兵庫県伊丹市千僧1-1 TEL(072)744-2088

令和3年度文化資源活用事業費補助金観光拠点整備事業(地域文化財総合活用推進事業)

